

科目名	あそび実践演習Ⅲ（体育） ～幼児期の運動遊び:動きの翻訳力を 育てる・子ども中心の運動案内法～		担当教員	石井友光		
			担当形態	単独		
テキスト	印刷教材	単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標■ この授業では、子ども中心の運動方法を「運動案内法」と位置付けて、子どもの興味関心に応じた活動を通して、小学校へ繋がる「動きを翻訳する力」を高める、人的・物的環境設定の能力を身につけ、実施することができる。</p> <p>■授業のテーマ及び概要■ 一般に幼児期の運動は「運動指導」「幼児体育」「運動保育」「体育遊び」「運動遊び」等、様々な呼び名で表現され、内容も様々です。現場での極端な例では小学校体育の内容をそのままスライドさせて行われていたりすることも珍しくありません。 本授業では、発育発達学の立場から正しい子どもの運動実践を援助する技術の獲得をテーマとします。 講座の展開は、子どもに戻って様々な遊びのプロセスを追体験することを中心に進められます。「こころ」が幼児期の運動には重要な要因となるからです。動きの合間に解説を加えて理論づけていきます。</p> <p>■授業計画■ 第1回 授業ガイダンス 第2回 動きの翻訳力を考える 第3回 見て理解する力を考える 第4回 身体の意識を通して動きの翻訳力を考える 第5回 時間と空間の意識を通して動きの翻訳力を考える 第6回 視一知覚を通して動きの翻訳力を考える 第7回 正しい姿勢の保持能力を通して動きの翻訳力を考える 第8回 運動感を通して動きの翻訳力を考える 第9回 記憶力・判断力を通して動きの翻訳力を考える 第10回 課題解決の能力を通して動きの翻訳力を考える 第11回 決断力・判断力を通して動きの翻訳力を考える 第12回 想像力を通して動きの翻訳力を考える 第13回 コミュニケーションの能力を通して動きの翻訳力を考える 第14回 年間計画と教材づくり 第15回 「まとめ」とレポートの作成</p> <p>■準備学習■ 授業で次のような課題に取り組んだ上で、次回の授業に出席すること。 ・毎時新しい動きを体験するので、自分なりにノートにまとめておくこと。 ・毎時新しい知識を伝達するので、自分なりにノートにまとめておくこと。</p> <p>■評価方法■ ・授業時間内での取り組み（実技・知識） — 50% ・最終回のレポート — 50%</p>						
参考文献	特になし		特記事項	毎回運動のできる服装とシューズを用意すること。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状選択必修 保育士資格選択		幼	教科に関する科目		
			保	保育の表現技術		